北　鹿　新　聞

2026年(令和8年)10月12日（木曜日）

異文化に触れ交流を

大館 県イベント初開催 VR、ARの体験も

地域国際フェスin県北

県主催の「あきた地域国際フェスティバルin県北」「あきたデジタル・ゲートウェイ体験フェス」が11日、大館市のタクミアリーナで開かれた。会場にはVR(仮想現実)やAR(拡張現実)のコーナー、世界各国のブースが設けられた。親子連れらが多く来場し、異文化やデジタルの世界に触れた。

国際フェスはこれまで秋田市を会場に開かれてきたが、県北地区では「地域国際フェス」として初開催。県内に住む海外出身者が増加傾向にある中で、異文化に理解を深める機会にしようと企画した。

タイ、ミャンマー、ネパール、米国、韓国、オランダなど9カ国のブースが設けられた。各国出身者が楽器や仏像、手芸品、紙幣など思い思いの品を展示。観光地の美しい風景や伝統・家庭料理の写真も並べて母国の文化を紹介した。

クイズラリーも実施し、来場者が各ブースでクイズに答えてさまざまな国籍の人と交流する場面も。ステージでは民族楽器の演奏や民族舞踊の披露もあり、盛り上がった。

家族4人で来場した三沢宗大さん(39)＝大館市＝は「観光地の国でも、意外と知らないことが多かった。ベトナムの帽子もかぶらせてもらえた。いろいろな国を知って、良い機会になった」と話した。

一方、デジタル体験フェスは毎年県内3会場で開催。子どもたちに最先端のデジタル技術に触れてもらい、将来の職業選択の一助にしてもらう狙いがある。

深海や宇宙空間にいるような体験ができるVRの360度映像を用意。カブトムシなど昆虫の絵に色を塗ってキャラクターを生み出し、画面上で対戦させることができるゲームも人気を集めた。

大館国際情報学院高校、秋田職業能力開発短期大学校の協力でプログラミングのワークショップ、3Dプリンターを紹介するコーナーも用意。子どもたちは真剣な表情でゲームを楽しんだり、デジタル技術を学んだりしていた。



海外出身者がブースを設けて母国を紹介した「地域国際フェスティバル」(タクミアリーナ)



「デジタル・ゲートウェイ体験フェス」では子どもたちがゲームやVR体験などを楽しんだ